

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K07826

研究課題名(和文) 城下町の水路と池庭の保全に関する現代の課題及びそれらの特徴の存続の可能性

研究課題名(英文) Actual Problems of Watercourses and garden pond at Castle Town in Japan, and Possibility which their characteristics continue to exist

研究代表者

佐々木 邦博 (SASAKI, Kunihiro)

信州大学・学術研究院農学系・教授

研究者番号：10178642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：長野市松代町の池庭の状態を調査した。30年前に調査された城下町中心区域の中では、池庭が存続しているのが70軒と、半減していた。利用は鑑賞がほとんどである。子供が少なくなった。一方で、虫は復活しつつある。他の城下町でも、池庭を持つ屋敷には後継者が住まず、池庭が減少しつつある事が判明した。結果的に、地域固有の景観が少なくなっている。米沢市では痕跡もなく、博物館内に昔の絵図や遺構を展示しているのみである。痕跡でも残していく努力は、他の城下町でも見られなかった。かつての地域固有の景観を残す計画は、見られなかった。今後の課題である。

研究成果の概要(英文)：As a result of the research on garden, it remains 70 gardens with pond in historical zone of castle town Matsushiro. 30 years ago, there were 140 gardens, fifty percent lost. The resident enjoy seeing his garden and flowers. At other castle towns, gardens with pond have decreased in historical zone and newly built houses increase. Consequently, characteristic landscapes of each castle town have disappeared. There is no effort to keep its vestige or fragment, there. It becomes clear the problem which now confronts us.

研究分野：造園学

キーワード：庭園 城下町 水路網 池 景観

1. 研究開始当初の背景

失われつつある都市固有の景観を保全する動きは全国各地で盛んになっている。しかし、本研究のように、旧城下町である市街地ばかりでなく、水路をも対象とし、水路や池庭などによる水利用の実態を水路のハード面と多面的な利用のソフト面とを一括して明らかにし、保全と活用をはかろうとする研究は少ない。また、このような水路につながった庭園群が残されている都市は世界的にも珍しい。欧米においても未だ研究がなされていない。

この面において、すでに研究を進めてきた。その結果明らかになった主要な点は、以下のとおりである。

(1) 松代町ではこの30年間で、多くの庭池が消滅した。水路も部分的に消滅している。季節的に枯れている水路もある。しかし水路網全体の形は残されている。他の城下町でも同様の傾向がある。

(2) 理由として、水量の減少や維持管理がなされなくなったことがあげられる。その背景として、所有者の高齢化、あるいは引越などにより不在となるという、社会的な高齢化と人口減少が主要な要因の1つとしてあげられる。

(3) その結果、敷地が売却されるなど、現状を維持していくことに限界が見られる。何らかの対策が早急に必要である。さらに、なくなる場合には残し方を検討する必要がある。

2. 研究の目的

日本の都市や村落は、1960年代高度経済成長期以来、画一的に整備されてきた傾向により、各地の固有の景観や特徴が見えにくくなっている。しかし、近年、失われつつある固有の景観を再評価する動きが活発化している。その一方で高齢化社会、人口減少の社会では新たな課題が発生している。そこで本研究は、都市の固有の景観を形成している要因の1つとして、文化的資産としても価値を持つ水路、池がある庭園、景観に焦点を当て

る。都市を貫く水路や池のある庭園は景観的にも重要であるし、都市に潤いを与えている要素でもある。城下町起源の都市は全国に数多いのでこの都市を対象とし、城下町の構成、江戸時代に形成された水路や上水道、現在の水路と池庭の残存状況と特徴、及び高齢化社会における課題を明らかにする。地域固有の景観や環境を、建築など他の文化的資産と関連付けながら今後活かしていくこと、また、保全することが困難な場合には名残の残し方を提案することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の遂行にあたり、都市と水路と池庭に関する歴史的な資料を収集する調査、現状を都市周囲の土地利用を含めて把握する実態調査、市役所の文化財担当者などへの聞き取り調査、そして都市に潤いをあたえる面から水路や池の環境を調べる実態調査の4種類の調査を行う。

4. 研究成果

長野市松代町の池庭の状態を調査した。30年前に調査された城下町中心区域の代官町、馬場町、表柴町の3町である。並行した3本の道路沿いにある3町である。

代官町では、変化のない屋敷地が50%を超えていた。しかし、建物も庭園も消滅したケースは、20%近くに上っていた。

馬場町では、変化している屋敷地と変化していない屋敷地が同数であった。変化の内容も、建物と庭園のどちらも完全に变化したケース、建物だけが新しく建て替えられたケース、道路沿いの門や塀や付属建物が変わったケースなど、様々であった。

表柴町では変化のなかった屋敷地が30%に過ぎず、変化の大きな町であった。建物と庭園のどちらも完全に失われたケースが多い。池庭も変化を受けている。

3町全体でみると、池庭が存続しているのが70軒と、半減していた。利用は鑑賞がほ

とんどである。子供が少なくなり、子供と共に利用する事は稀になっている。またミニ開発が行われ、敷地が分割されているケースも見られた。この開発は近年増加している。このように、30年の変化は大きく、古くからある建物、庭園がセットで残されているケースは、数少なくなった。

一方で自然環境の側面だが、虫は一度ほとんど見られなくなったが、近年、川や水路に復活しつつある。

また、池のある庭園や敷地内の水路の管理だが、住民の高齢化とともに、管理されなくなってきている。池の泥上げも、大きな池では業者に頼まなければならないのが現状であり、近年は全くなされていらないケースがほとんどである。新住民を含めたボランティアを募る話が生まれているところである。地域固有の景観のひとつとして、道路から見える庭木の緑が豊かであることが挙げられるが、特徴的な松の存在を含め、この点は少しずつ減少しつつある。

松代町全体で古くからの庭園を所有している方に対してアンケート調査を行った。住民の意識だが、池を所有している方でも、水を入れず枯山水にしている方でも、自ら所有している庭園が松代町の歴史的な文化遺産であるという認識を持つ方が全体の70%を超えていた。さらに、池を所有している方に、現在の池庭を将来に残したいかという質問に対し、残したいという回答がほとんどであった。ただ、子供が引き継ぐかどうかわからないという回答も30%近くあり、公的な助成があれば残せるという回答も10%あった。さらに池に入る水量の不足も大きな課題としてあげられている。特に湧水に頼っている馬場町でこの意見が多い。城下町松代を構成する町単位で課題に違いがあり、それぞれに対策が必要なことが明らかになった。松代に一律の対策が必要な場合と、町内ごとにきめ細かく見ていかなければならない点の二つが

あり、それぞれを考えていかなければ歴史的な庭園群を保存できないことが明らかにされた。

他の城下町だが、特に福岡県柳川市では松代町と同様に、池庭を持つ屋敷には後継者が住まず、池庭が減少しつつある事が判明した。更地にされ、売却されるケースも出てきている。福岡県朝倉市秋月では荒れている庭が増加している。群馬県甘楽郡甘楽町小幡や長崎県雲仙市国見町神代では、池を持つ庭園の数が少ない事もあり、保存されている。結果的には、全体的に地域固有の景観が少なくなっているといえる。米沢市ではすでに痕跡もなく、博物館内に昔の絵図や遺構を展示しているのみである。痕跡でも残していく努力は、他の城下町でも見られなかった。かつての地域固有の景観を残す計画は、見られなかった。地域固有の景観を、その痕跡でも残していくことは、今後の課題である。

松代町の近年の変化の実態と理由に関し、現在、論文を取りまとめ中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

- ① 佐々木邦博、長井有紀、長野市の松代城下町の庭園群を支える水路網の近年の変化、日本庭園学会誌、30 巻、1-10、2016、査読有

〔学会発表〕(計 5 件)

- ① 佐々木邦博、シンポジウムを主催、「全国各地に残る庭園群の現状および保全と活用」、開催趣旨と「松代の事例」を担当、平成 30 年度日本庭園学会全国大会、2018
- ② 佐々木邦博、真田藩の城下町である松代町に残る絵図に描かれた庭園について、平成 29 年度日本庭園学会関西大会、2017
- ③ 山田銀河、佐々木邦博、城下町松代の武家屋敷池における池庭の近年の変化と所有者の意識、平成 29 年度日本造園学会中部支部大会、2017
- ④ 山田銀河、塩原将希、丹羽幸恵、南郷極花、佐々木邦博、松代における池庭・水路の 30 年の変化の実態、平成 28 年度日本造園学会中部支部大会、2016
- ⑤ Kwangpyo Hong, Makoto Suzuki, Hyukjae Lee, Kunihiro Sasaki、A

comparison study on the landscape components of house gardens between Korea and Japan during the Japanese occupation of Korea、ICOMOS-IFLA ISCCL 2015 International Symposium、2015、济州島

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 邦博 (SASAKI Kunihiro)
信州大学・学術研究院農学系・教授
研究者番号：10178642

(2) 研究分担者

大窪 久美子 (OKUBO Kumiko)
信州大学・学術研究院農学系・教授
研究者番号：90250167

上原三知 (UEHARA Misato)
信州大学・学術研究院農学系・准教授
研究者番号：40412093